

フィールド風 (現場)からの

宮田守男

12月に入ってもスキー場が全面滑走できない状況の中、赤穂浪士47人が本所の吉良邸に討ち入りした14日の記念日に待望の降雪が

あり一部ではあるが滑走可能なスキー場がオープンした。多くの宿泊施設では、お客様からの問い合わせに対応できると安堵の声が聞こえてくるが本格的な降雪を願うばかりだ。

日常生活を営む上で「度忘れ」と「認知症」の違いを考える事が大切だ

毎年、京都に本部がある日本漢字能力検定協会が、その年の世相を表す漢字一文字を一般から募集して、最も多かった字として今年の漢字を「災」と京都の清水寺で発表された。「災」は、川と火を示している字だ。「災」が選ばれた理由は、西日本豪雨や北海道地

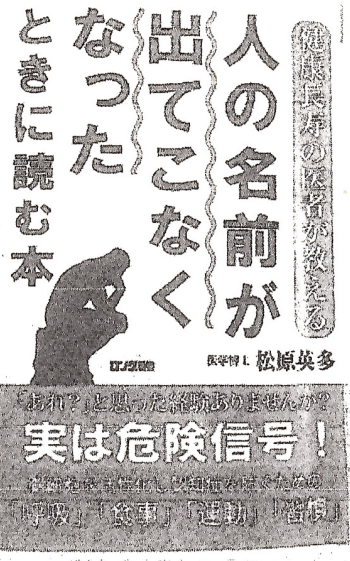
震、それに相次いだ台風や記録的な猛暑などによって多くの人が被災した事や災害復興を支えるボランティアに注目が集まった事。スポーツ界でのパワハラ問題、財務省の決裁文

書改ざん、大学の不正入試問題などが発覚し、多くの人がこれらを人災や災いと捉えた。協会が選定理由を挙げた。

来事で印象が強かった事の中でも、県内では「御岳山噴火」、国内では「東日本大震災」や「阪神・淡路大震災」が数多く回答されたが発表した。だが時間が過ぎるごとに記憶が薄らいでいくのも確かだ。

「覚えているかい」で会話が止まり、「ま………」日常生活でできる脳活性化のための習慣の内容は興味深かった

「あいいか」で済ませてしまう事が気になりだしたとき、書店で「人の名前が出てこなくなるときに読む本」が気になり手に取る。表紙の裏面に「顔は覚えていないが名前が出てこない」「名前が出なくなった時の脳内状態は大変」「大切なのは強い意志と意欲そして実行と継続」「日常生活でできる脳活性化のための習慣」などの項目が気になり購入する。



著者は松原英多医学博士、日本テレビ系列の「おもいっきりテレビ」のホームドクターとして23年間レギュ

ラーで知る人も多いはずだ。冒頭の書き出し、肌の曲がり角は25歳というが、脳の曲がり角は35歳。「度忘れだから仕方ない」「人間だもの、度忘れくらいするよ」、そして最後に「オレも年かな」と言いつつも、軽視する。度忘れほど怖いものはない。あらゆる場面遭遇する「人やモノの名前が出てこない」と言う「問題に自分自身を振り返って考えなくては、と思わせられた内容でもあった。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)